

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	福知山市児童発達支援センターすきっぼ		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2025年 12月 2日		～ 2025年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 13日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	満足度の項目はいずれも高評価をいただいております。安心して・楽しみにご利用いただける場所になっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗大遊具を活用し、心と身体を使った体験を通して成長(発達)を支援している。</li> <li>・プログラムが固定化しないよう週替わりで計画をし、その時々流行等も取り入れながら計画している。</li> <li>・個別のニーズに応じた活動や集団でのやりとりをねらいとした活動といったように、様々なねらいを持って活動を設定している。</li> <li>・しっかりと心と身体を動かして発散をしたり、活動の中で難易度の設定や調整を行ったりすることで、満足感や達成感のある活動となるよう設定している。</li> <li>・高い専門性を持って支援できるよう職員の資質向上に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様や関係機関の皆様と情報交換や情報共有を行いながら、一人ひとりに対して丁寧にアセスメントを行い、オンリーワンの支援を目指す。</li> <li>・事業所職員間で活発にコミュニケーションを図りながら、チームで療育に取り組む。</li> <li>・子ども主体の活動を展開する中で、『やってみたい』というさらなる意欲を引き出していけるよう取り組んでいく。</li> <li>・活動によって人数や活動場所を調整する等の工夫をしたり、職員間でアイデアを出し合ったりしながら、より充実した活動の時間となるよう取り組んでいく。</li> </ul>
2	保育士だけでなく、作業療法士や言語聴覚士を配置しており、より専門性の高い支援を提供することや、ご家族様からのご相談やニーズに対応している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な職種の職員と意見交換を行いながら、一人ひとりへの支援を検討、実施している。</li> <li>・言語面や運動面等、それぞれに焦点を当てたプログラムを提供している。</li> <li>・高い専門性を持って支援できるよう職員の資質向上に努めている。</li> <li>・一人ひとりの特性やニーズを組み込んだ具体的な支援計画を作成し、職員間で共有しながら支援を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内研修を実施し、外部研修等にも積極的に参加し、職員の資質向上に努める。</li> <li>・事業所職員間で活発にコミュニケーションを図り、意見交換を行ったり、アイデアを出し合ったりしながら、チームで療育に取り組む。</li> <li>・少人数のグループ分けや職員体制の見直し等を行うことで、個別のニーズに応じた活動を継続して取り入れていく。</li> </ul>
3	日々のやりとりの中で保護者様と活発にコミュニケーションをとり、家族支援にも意欲的に取り組んでいる。また、学校の先生でもない・家族でもない、療育の専門家(第三者)として、保護者様や学校等の関係機関と連携をとりながら直接的・間接的な支援を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎の際に活動等の様子や職員の支援について丁寧に伝えるよう取り組んでいる。</li> <li>・保護者様から気軽にご相談いただけるよう、関係作りに取り組んでいる。</li> <li>・在籍校等の関係機関とも連携を行い、包括的な支援が行えるよう取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して保護者様とのやりとりを大切に積み重ね、充実した家族支援となるよう取り組んでいく。</li> <li>・年間を通して計画的な家族行事や面談等の機会を設定していく。</li> <li>・事業所職員間で活発にコミュニケーションを図りながら、チームで療育に取り組む。</li> <li>・関係機関に対しても事業所の取り組みについて情報を発信することで、より活発な連携が実施できることに繋げていく。</li> </ul>
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等

1	リスクマネジメントについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粗大遊具を活用してダイナミックに全身を使った体験を提供している分、怪我等のリスクは高い。</li> <li>・活動場所を区切る等して構造化している分、活動中の職員間のコミュニケーションが取りにくいというデメリットもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備や遊具の点検を継続して確実に実施していく。</li> <li>・リスクの予防やリスクを察知する視点について事業所内で勉強会を実施する等継続的に取り組んでいくと共に、職員の資質向上に努める。</li> <li>・職種や担当に関係なく、事業所職員間で活発にコミュニケーションを図りながら取り組んでいく。</li> <li>・療育活動だけでなく、非常時の対応等事業所（法人）として取り組んでいる内容についても保護者様に向けて見える化していく。</li> </ul>
2	コミュニケーションについて (保護者様・関係機関・事業所職員間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんや保護者様の多様なニーズ、多岐にわたる業務等に対応できるよう努めているが、資源（人、物、時間）には限りがある。それらに伝えていくためにはコミュニケーションの充実が必須であるとする。</li> <li>・保護者向け評価にて、『どちらとも言えない』『わからない』との回答が一定数あり、事業所の取り組みについて、十分な発信ができていなかったと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者様とは継続して送迎時や面談等でやりとりを行うと共に、文章や電話でのやりとり等も積極的に取り入れる等してより充実させていく。</li> <li>・連絡帳の活用、降園時の職員体制について検討を行い、抜けや漏れのないように取り組んでいく。</li> <li>・今後も継続して業務体制や業務内容の見直しを行うことで、職員間のコミュニケーションや一人ひとりのケースに向き合う時間を確保していく。</li> <li>・事業所の取り組みについて、HP等を活用して保護者様に向けて見える化していく。</li> </ul>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 福知山市児童発達支援センターすきっぷ

公表日 2026年 3月 20日

利用児童数 49

回収数 34

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	31	3			・広い空間で遊ばせてもらっています。	今後も活動内容に応じたスペースの使い方を工夫していきたいと思います。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	5		9	・いつも丁寧に見ていただき、ありがとうございます。	職員配置数は適正な配置人数を確保しており、活動内容に応じてグループ化した上で職員の配置をしています。今後も配置の工夫や職員間での連携を確実に行っていくことで、より良い療育の提供や保護者様のニーズにしっかりと応えていけるよう取り組んで参ります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	1		1		お子さんに伝わりやすい方法、理解しやすい方法について検討し、保護者様とも共有をさせていただきたいと思います。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	31			3		毎日、活動後に清掃・消毒を実施しております。これからも安全で清潔な事業所を心掛けて参ります。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29	4		1	・きょうだいで特性が全く違うけれど、各々に合った対応をしてくれ、ありがとうございます。	様々な種類の職員と意見交換を行いながら、お子さんの支援を計画・実施しております。今後も専門性のある支援を目指して参ります。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29	4		1		毎日の活動プログラムについては『支援プログラム（公表）』で示している5領域を踏まえたねらいを持って計画・実施をしております。『支援プログラム（公表）』についてはホームページに掲載しておりますのでご覧ください。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28	1		5	・いろいろな課題に取り組んでもらっていると感じています。	今後もお子さんの困り感を分析した上で、保護者様のニーズ・ご希望に沿った支援計画が作成できるように取り組んで参ります。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28	3		3		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	30	1		3		計画に基づいた個別のねらいを設定しております。個別のねらいについても保護者様と共有できるよう取り組んで参ります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	26	3	1	4	・サーキットやバランス能力、挑戦する勇氣もすきっぷで鍛えてもらっています。クッキングも大好きです。	今後もお子さんにとって、楽しい活動になるよう設定していきたいと思っておりますので、ぜひ、お子さんのご要望や流行をお聞かせください。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	11	6	9	8	・交流の話を聞いたことがありません。	一緒に活動する機会の確保はできておりません。また保護者様からのご意見をお聞きしながら検討させていただきます。
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33				1		ご請求内容につきまして、ご不明な点がありましたら事務所までお声掛けください。詳しくご説明させていただきます。その他のお問い合わせについてもありませんでしたら、事業所職員にお声掛けください。

保 護 者 へ の 説 明 等	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	33			1		計画の作成に時間がかかっており大変申し訳ありません。スムーズにご説明できるよう気を付けて参ります。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	29	3		2	・参加したいが、なかなか時間が合わず残念に思うことがある。	すきっぷでは、家族支援プログラムとしてすきっぷ参観日や保護者deおしゃべりを実施させていただいております。今後も、参加していただきやすい方法や内容・日程を検討して参ります。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	31	2	1			今後とも、送迎時や面談の際に詳しくお伝えし、保護者様と共有理解ができるよう努力して参ります。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	7			2		面談の調整についても時間がかかっており大変申し訳ありません。今後少しでも保護者様のお気持ちに寄り添えるよう取り組んで参りたいと思います。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29	5				・課題に対し、職員間で話し合っていたりして対応していただけます。	今後保護者様の思いやニーズを丁寧に聞き取りながら、コミュニケーションをとっていただけるよう心掛けて参ります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	10	3		8		今後保護者様から開催時期や日程、内容についてのご意見をお聞きしながら、有意義な活動となるよう継続して取り組んで参ります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26	4			4	・相談だけでなく、その後の様子や親の気持ちも考慮していただけます。	今後一人ひとりのお子さんと向き合い、事業所職員がチームとなってサポートしていただけるよう取り組んで参ります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	33				1		保護者様とのコミュニケーションが従事するよう、送迎の際等には積極的に声を掛けさせていただきます。よろしくお願ひいたします。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	31	1			2		今後活動の様子・専門職のコラム等を定期的(10日・20日・30日前後)にホームページにて発信させていただきます。また、今回を含め、過去の事業所評価等の結果については、福知山学園のホームページ等で公表させていただいております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	33	1					今後個人情報取り扱いには十分注意して参ります。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	3	1	11			各種マニュアルについてはすきっぷ玄関前のパンフレットスタンドに配置をさせていただいております。ご確認ください。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	4			13		避難訓練等については、定期的に実施をさせていただいております。また、法人での一斉訓練にも参加しています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	26	1			7		今後事業所内で丁寧に安全確認や安全確保に関する勉強会を行いながら、安心してご利用いただけるよう取り組んで参ります。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	1			5		今後安全確保に努めながら、万が一の場合については適切に対応をしていただけるよう心掛けて参ります。
27	こどもは安心感をもって通所していますか。	33	1				・いろんな経験ができ、喜んで行っています。成長も感じられ、本当にうれいです。	ありがとうございます。今後も引き続き、子ども達にとって安心して活動できる場所であるよう、運営して参ります。	

満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	31	2		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の気分によって流されてしまうがすきっぷは大好きです。</li> <li>・すきっぷでしかできないプログラムが楽しいように思います。</li> </ul>	<p>ありがとうございます。 これからも楽しく通っていただけるよう、魅力のある活動ができるよう努めて参ります。</p>
	29	事業所の支援に満足していますか。	31	2		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからもよろしくお願いします。</li> </ul>	<p>今後も引き続き、保護者様の思いに寄り添い、お子さんの成長（発達）をサポートしていただけるよう、職員員の質向上に努め、より良い療育の提供に努めて参ります。</p>

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	福知山市児童発達支援センターすきっぷ			公表日	2026年 3月 20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	基準 (24.7㎡) 以上の空間 (86.0㎡ : 41.0㎡ + 45.0㎡) の確保はできている。活動内容等スペースの利用方法について安全に活動できるよう、その都度工夫し対応している。	基準は達成しており、活動内容やご利用児の特性等踏まえながら、その都度工夫している。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	基準 (2名) 以上の職員数 (5名以上) の確保はできている。	基準は達成できているが、プログラムや配置の工夫、他部署からの応援体制等で、より充実したサービス提供ができるよう整える。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		床面はフラットになっており、エレベーターも設置されている。様々な広さの部屋があり可動壁も活用している。日々子どもたちの課題に合わせて職員間で配慮の方法について検討している。	今後も継続して、子どもたちの変化や課題を職員全体で共有していく。また、高学年のご利用児に適した環境設定ができるよう整えていく。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		毎日、活動後に清掃消毒を実施している。	今後も継続して取り組んでいく。また活動に応じた空間設定を行っていく。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		個別室やたたみの部屋等、個別で過ごせる場所が保障されており、必要に応じて個別対応をしている。	今後もその時々のご利用児の状態に合わせて活動内容や活動スペースが調整できるよう取り組んでいく。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	5		事業所アンケートだけでなく、事業計画や事業目標を設定し、継続的に取り組んでいる。	PDCAサイクルを共有し、継続的に見直しを行っていく。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		評価結果について職員間で共有している。	事業所・職員の目標として取り組む。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		毎日、振り返りの時間を設け、意見交換等を行っている。また、定期的に職員面談や職員アンケートを実施し、その結果を共有したり、面談での提案を受けて改善に努めている。	今後も継続的な意見交換や定期的な面談を行うことで、チームで療育に取り組んでいく。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5		訪問指導や各関係機関との連携の中で評価を受けた場合、業務改善に取り組んでいる。	職員間で共有を行い、必要に応じて業務改善を行っていく。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年間1人1回以上の研修の機会と、法人内研修参加等の機会を設けている。	様々な分野の研修の機会を確保し、資質向上につなげていく。また、今後も研修等に参加しやすい体制作りに取り組んでいく。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを作成し、ホームページにて公表をしている。	今後も支援プログラムに記載した活動や取り組みを実現していけるよう取り組んでいく。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		保護者面談でのニーズの聞き取りや発達検査、専門職のアセスメント、職員の見立て等複数の職員で意見を交わしながら作成している。	今後も継続していく。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		計画作成時には、前回の計画を基に設定している個別のねらいや活動の様子を踏まえて作成しており、職員間で確認や検討を行った上で保護者様へお渡ししている。	今後も継続していく。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		放課後等デイサービス計画の閲覧ができるようファイルしている。また、計画を基に個別のねらいを設定し、計画に沿った支援が行われるよう取り組んでいる。	今後も継続していく。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		発達検査を実施・分析するなど活用している。	今後も継続しつつ、新たなツールの活用についても検討していく。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインの閲覧を実施した上で、具体的な支援計画の作成に取り組んでいる。	今後も継続していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		月案や年間予定で計画し、毎年見直しを行っている。様々な職種の職員が連携して立案し、実施後も意見交換を行っている。	今後も継続し、より良いプログラム作成を目指していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節行事やその時々流行を取り入れながらプログラムを計画している。また、スペシャルウィークの実施やご利用児からの要望も取り入れている。	職員の働き方についての見直しも行いながら、今後も楽しく活動する中で心身の成長にアプローチできるよう提案していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		本人や保護者様・在籍校等とも相談しながら、各専門職も交えて個別活動の目標および集団内での目標を作成している。	今後も継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		時差勤務で職員間の連携が回りにくい状況であるが、事前資料の確認や必要に応じた声掛けを行っている。また、余裕を持って準備を行っている。	職員体制・勤務マニュアルの見直しを行うことで、情報共有の時間をしっかりと確保していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5		翌日に振り返りを実施し、その内容をチャットツールを活用して共有できるようにしている。また、記録を閲覧して情報共有ができるようにしている。	今後も継続して、より充実した振り返りを行い、確実に共有できるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		療育終了後に記録を行い、児童発達支援管理責任者により内容等確認をしている。	さらに充実した記録となるように職員間での検討を行う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期（半年ごと）のモニタリングを実施している。また保護者様・関係機関との連携を図り、計画に反映している。	今後も継続していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5		ガイドラインについては職員全体で確認を行っている。	よりガイドラインを意識した活動を提供できるよう取り組んでいく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		自由時間の過ごし方や活動への参加方法等、その時々のご利用児の思いに寄り添いながら対応している。また、写真や絵・文字を活用しながら自分で選択できるような設定もしている。	今後もより良い方法について職員間で検討しながら取り組んでいく。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		相談支援事業所が同法人であるため状況の把握や連携が取りやすい。	今後も継続していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		すきっぷ通信を発行し、ご利用児・保護者様の情報共有など関係機関と連携を図っている。また、必要に応じて市や医療との連携を図っている。	ご利用児と保護者様にとってはもちろん、関係機関にとっても有効な支援となるよう、今後も連携を図っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校からお知らせをいただいたり、送迎時に情報共有を行っている。また、年2回、書面でのやりとりをしながら、必要に応じて電話連絡や訪問見学等の取り組み等で情報共有や連携を図っている。	今後もより充実した連携・情報共有ができるよう取り組む。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		保護者様を通して、必要な情報については共有をしている。	引き続き、保護者様の意向を確認しながら必要な情報共有に取り組む。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		対象が小学校6年生までのため、このようなケースは無いが、必要に応じて連携をしている。	今後も保護者様の意向を確認しながら適時、必要な情報の共有に取り組む。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		HPにて当事業所の取り組みについて発信をしている。また、定期的に外部講師を招き、職員の質の向上に取り組んでおり、専門気下院への研修も積極的に参加している。	今後もより充実した連携ができるように取り組む。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	機会として設定はできていない。	交流は不要という保護者の意見もあり、今後については検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		自立支援協議会やこども部会に参加している。	今後も継続して積極的に参加していく。

保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や随時面談等を実施し、保護者とのコミュニケーションを図っている。	今後も継続していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		「保護者会（参観日）」や個別面談等を実施している。	今後は職員がペアレントトレーニング養成研修などへの積極的な参加を実施する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時と変更時に説明を行っている。	引き続き、丁寧に説明を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		計画作成時には、その時々のご利用児や保護者様の思いやニーズ等の情報を収集・整理し、説明時にご要望があれば変更・追加もしている。	今後も継続していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		年間1人2回の面談を行い、保護者様に同意のもとサインを頂いている。	今後も継続していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		連絡帳やお迎え時のやりとり、随時電話での相談や見学・面談を受け付ける中で、相談内容に応じて専門職も入りながら対応している。	今後もより充実できるように取り組む。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		「保護者会（参観日）」を実施している。	今後もより充実できるように取り組む。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情に関する対応システムがあり、苦情があれば取り組む。	苦情がないよう事業所全体で取り組んでいく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		ホームページでの活動報告（月3回更新）を行っている。また、年2回、保護者様を介して在籍校と書面でのやりとりを行っている。	今後も継続していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の取扱いに関する指針を設けている。	今後も注意して取り扱う。
非常時等の対応	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		ご利用児・保護者様の意思を確認しながら、写真やビデオ、オンラインでの見学等充実したコミュニケーションができるよう配慮を行っている。	今後も継続していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	5		地域の方の事業所見学等は随時実施している。地域住民を招待する機会は設けていないが、行事等にはボランティアの方を招待するなど企画していく。	今後はより充実できるよう検討を行う。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアルは策定できている。訓練については定期的に取り組んでおり、今後はより実践的な訓練としていく。	マニュアルについては職員が常に確認できるような整備、訓練に関してもお知らせ等での周知だけでなく、実際の様子などが保護者様も確認できるよう取り組む。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		法人内研修としてBCP訓練に取り組んでいる。	今後も継続していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		アセスメント時、契約時に確認をしている。	今後も継続していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		アセスメント時、契約時に確認をしている。	今後も継続していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		遊具等の設備の点検、虐待防止や人権についての研修等について、年間スケジュールを作成し、計画的に実施している。また、学校等への送迎に関しては送迎確認表を作成し、園外活動時には外出計画書を作成して安全管理に取り組んでいる。	今後も継続していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		学校等への送迎については、毎月、保護者様と確認を行っている。	事業所内の取り組みについても保護者様に周知していけるよう、見える化していく。

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットについては事業所内で確認し、法人内のヒヤリハット事例も共有している。	今後も継続していく。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		虐待に関する法人内・事業所内研修を実施している。報道などがあつた際には職員間で共有している。	今後も継続していく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		事業所では身体拘束は行っていないが、やむを得ない場合については事業所内、法人内で決定しており、契約時に丁寧に説明を行っている。	十分に検証を行い、必要な場合は記載を行う。